てんしゃばの現在、これから　てんしゃば

グループホームてんしゃばは設立して今年で18年目になります。現在は女性ホーム「あすかA・B・C」と男性ホーム「そら」の四ホーム体制で運営しています。コロナ禍における新生活様式の中、外出や余暇支援も段階的に再開しています。

てんしゃばの名前の由来は、設立当初、駅前通り沿いに建物があり、駅前通りは通称てんしゃば通りと呼ばれていて、そこから名称を拝借したということです。転車場とは鉄道車両を転車台により目的の方向に向けることの出来る場所です。てんしゃばも利用者さん一人一人の未来を見据え、生活する上での目的や楽しみを実現していく、そんな場でありたいと考えています。

本年度に入り、現在新たな男性ホーム設立に向け、計画が進行中です。それに向け十月より、男性ホームが他事業所との兼務体制となりました。陽光園、ふらっぐ、GOODJOBの職員がてんしゃば支援員として交代で勤務しています。高まる地域ニーズに応えるべく、課題解決に向けて職員一同頑張っていきたいと思います。



サービス管理責任者
勤続22年　前山秀邦

ほっとで繋ぐ地域の輪　ほっと

館林邑楽相談支援センターほっとは、館林市と邑楽町、板倉町、千代田町、明和町の一市四町の方を対象に相談支援を行っています。感染防止対策を引き続き実施しながら、来所や訪問等での支援を継続して行っています。

「相談支援」とは、障がいを持つ方が置かれている状況や抱えている悩みの相談に応じ、暮らしについて一緒に考えることです。主に地域にある社会資源の情報提供や、必要な障害福祉サービスの利用につなげる支援、関連機関との連絡調整を行っています。

相談では障害福祉以外の法制度や、税金、年金、病院、就職支援など、暮らしに関わる様々な事柄の相談が飛び込んできます。すぐにぱっとお答えできることもありますが、相談内容は多岐に渡るため、関係機関と連携して対応することになります。

ほっとは一人ひとりが、より良く暮らしていけるよう、必要な時には適切な機関にお繋ぎしていきます。相談者の悩みを聞いて、気持ちを理解し、手助けをしてくれる支援者が増え、支援の輪を広げられるようお手伝いを致します。

そして、地域生活を送る方々をサポートするのに、最良のハブ拠点としての役割を果たしていけるよう頑張って参ります。

相談員
勤続4年　永澤　祐介